

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**(共通)**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1141		
科目名	市民と法		
担当教員	杉山 幸一		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 1		
講義室	1310	単位区分	必,選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	総合教育		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	文化教養		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-D 〔市民的素養・市民的教養〕 市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。 DP7-C 〔他者理解・倫理観・公共心〕 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP3-H 〔論理的思考力・批判的思考力〕 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-I 〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 D1 市民的素養と参加(50%) C1 倫理的思考・社会認識(20%) H1 論理的思考(15%) I1 理解・分析と読解(15%)		
教員の実務経験	なし		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 2 進行情〜3 発展期		
科目概要・キーワード	法と道徳、法源、法の分類、法解釈の方法等、科目としての「法学」でおこなう内容を凝縮して法学の基本的な知識を習得することを内容とします。また、人々の生活に関連する領域については、民法を中心としながら人と財産・家族の関わりという観点からの理解を深めさせ、さらには、私法上の概念の基礎となる人・物・行為などの諸概念や意義について論じることによって、「契約法」や「不法行為法」についての基礎的知識を習得させることを目標とします。（キーワード）法学、解釈、裁判、民法 授業形態は講義形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（オンデマンド型）を取り入れます。		
授業の趣旨	■副題 複雑化する現代社会において、なぜ社会にルールが必要なのか、社会のルールである法律の構造や解釈などの法学の基礎を知ろう。 ■授業の目的 リーガルマインドを養うための基礎を習得するため、法学の基礎と市民社会の基本法である民法の基礎を習得することを目的とする。 ■授業のポイント		

	市民生活における法を認識するとともに、現代社会におけるトラブルなどを解決するため、「ものの見方・法的な考え方」の基礎知識を習得し、社会を形成していく市民の基礎的素養として必要な法的基礎知識の習得をしてもらいます。今後、履修する法律系科目、またキャリア選択や領域選択の判断材料とします。								
総合到達目標	■市民生活における法の基礎知識や概念を修得する。 ・法の意味や法学の意義について説明できる。（第2回、第3回） ・法の機能や制度について説明できる。（第4回～第8回） ・市民生活と法の関係について説明できる（第3回、第9回） ■危機管理システムの基礎となる法的思考すなわちリーガルマインドを習得する。 ・法を解釈できる。（第4回、第10回～第15回） ・市民生活における法律の役割が理解できる。（第10回～第15回） ■市民生活上のトラブル解決に必要な法的思考を行うための基礎知識を習得する。 ・具体的事例に対して、法律の条文を適用できる。（第8回） ・民法について説明できる。（第10回～第15回）								
成績評価方法	成績評価手段 レポート2回（60%）：適用ルーブリック C1・D1・H1 （評価の観点）授業の内容を踏まえて論理立てて明確に自分の考えを示せるか。 （フィードバック方法）授業時間中に解説を行います。 授業内テスト1回（40%）：適用ルーブリック D1・I1・H1 （評価の観点）授業の内容を踏まえて、判例六法を使いながら論理立てて明確に自分の考えを示せるか。 （フィードバック方法）授業時間中に解説を行います。								
履修条件	必修のため特になし								
履修上の注意点	特になし								
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス（全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明）、イントロダクション ②授業概要：授業概要、授業の目的と進め方、到達目標、成績評価方法について説明を行います。 （ガイダンス）六法の使い方、参照条文の意味などの理解することと目的とします。 （イントロダクション）法律と社会の関係（D1）、法律の基本を概観します（H1・I1）。 ③予習（120分） 『判例六法』（有斐閣）で刑法や民法の条文を読まなければならない。 ④復習（120分） 授業を振り返り、目的や到達目標を確認し、理解しなければならない。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 法学と法律について ②授業概要 法学とは、社会科学に属する学問です。なぜ社会に法が必要なのか、その目的や効力はどのようなものなのかを中心に講義します（D1）。具体例を取り上げていながら、法律の必要性、法体系、条文構造などについて説明します（C1・H1）。 ③予習（120分） 教科書『プラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の第1章～第3章を読んで、法学を学ぶことについて理解しなければならない。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、生活の中で法律がどのようにに関わり、法学を学ぶことの意義について考えなければならない。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ 社会規範・行為規範としての法 ②授業概要 法は社会を規律する規範であり、人々の行為を規律する規範でもあります。そこで、社会規範とは何か、行為規範とは何かを考察し、社会規範としての法と行為規範としての法について、具体例を交えながら説明できるようになることを目指します（D1・C1）。さらに、法と道徳の関係についても説明できることを目的とします（C1・H1）。 ③予習（120分） 教科書『プラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の第1章第2節を読み、法の社会規範としての側面、行為規範としての側面を理解しておかなければならない。 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス（全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明）、イントロダクション ②授業概要：授業概要、授業の目的と進め方、到達目標、成績評価方法について説明を行います。 （ガイダンス）六法の使い方、参照条文の意味などの理解することと目的とします。 （イントロダクション）法律と社会の関係（D1）、法律の基本を概観します（H1・I1）。 ③予習（120分） 『判例六法』（有斐閣）で刑法や民法の条文を読まなければならない。 ④復習（120分） 授業を振り返り、目的や到達目標を確認し、理解しなければならない。	2	①授業テーマ 法学と法律について ②授業概要 法学とは、社会科学に属する学問です。なぜ社会に法が必要なのか、その目的や効力はどのようなものなのかを中心に講義します（D1）。具体例を取り上げていながら、法律の必要性、法体系、条文構造などについて説明します（C1・H1）。 ③予習（120分） 教科書『プラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の第1章～第3章を読んで、法学を学ぶことについて理解しなければならない。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、生活の中で法律がどのようにに関わり、法学を学ぶことの意義について考えなければならない。	3	①授業テーマ 社会規範・行為規範としての法 ②授業概要 法は社会を規律する規範であり、人々の行為を規律する規範でもあります。そこで、社会規範とは何か、行為規範とは何かを考察し、社会規範としての法と行為規範としての法について、具体例を交えながら説明できるようになることを目指します（D1・C1）。さらに、法と道徳の関係についても説明できることを目的とします（C1・H1）。 ③予習（120分） 教科書『プラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の第1章第2節を読み、法の社会規範としての側面、行為規範としての側面を理解しておかなければならない。
回	内容								
1	①授業テーマ ガイダンス（全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明）、イントロダクション ②授業概要：授業概要、授業の目的と進め方、到達目標、成績評価方法について説明を行います。 （ガイダンス）六法の使い方、参照条文の意味などの理解することと目的とします。 （イントロダクション）法律と社会の関係（D1）、法律の基本を概観します（H1・I1）。 ③予習（120分） 『判例六法』（有斐閣）で刑法や民法の条文を読まなければならない。 ④復習（120分） 授業を振り返り、目的や到達目標を確認し、理解しなければならない。								
2	①授業テーマ 法学と法律について ②授業概要 法学とは、社会科学に属する学問です。なぜ社会に法が必要なのか、その目的や効力はどのようなものなのかを中心に講義します（D1）。具体例を取り上げていながら、法律の必要性、法体系、条文構造などについて説明します（C1・H1）。 ③予習（120分） 教科書『プラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の第1章～第3章を読んで、法学を学ぶことについて理解しなければならない。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、生活の中で法律がどのようにに関わり、法学を学ぶことの意義について考えなければならない。								
3	①授業テーマ 社会規範・行為規範としての法 ②授業概要 法は社会を規律する規範であり、人々の行為を規律する規範でもあります。そこで、社会規範とは何か、行為規範とは何かを考察し、社会規範としての法と行為規範としての法について、具体例を交えながら説明できるようになることを目指します（D1・C1）。さらに、法と道徳の関係についても説明できることを目的とします（C1・H1）。 ③予習（120分） 教科書『プラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の第1章第2節を読み、法の社会規範としての側面、行為規範としての側面を理解しておかなければならない。								

	④復習（120分） 講義ノートを確認して、社会規範・行為規範としての法について考え、なぜ道徳は法の最小限となるのか考えなければならない。
4	①授業テーマ 法の解釈 ②授業概要 条文は抽象的に書かれています。具体的な事件解決のために、この抽象的な条文を事例ごとに当てはめていく作業が解釈です。法学を学ぶ上で、またリーガル・マインドを修得するために必要な技術であるため、解釈の必要性について考え（H1・I1）、解釈の種類・手法を説明できることを目的とします（D1・C1）。 ③予習（120分） 教科書『ブラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の第4章を読み、法の解釈の全体像を理解しておかなければならない。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、法解釈の意義について考え、提示された具体例においてどのように条文が解釈されているか考えなければならない。
5	①授業テーマ 法と強制①－法と強制の関係 ②授業概要 法は、強制を本質とします。法と強制の関係を考察し、なぜ法に強制が必要となるのか説明できるようになることを目的とします（D1・C1）。国家社会を規律するために法に強制力が備わっていることの意義について考察できるようになることを目的とします（H1）。 ③予習（120分） 教科書『ブラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の第1章第1節を読み、法と強制の関係について確認する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、強制とは何か、その必要性について考えなければならない。
6	①授業テーマ 法と強制②－強制手段（制裁方式） ②授業概要 法の本質である強制は、様々な方式がある。そこで、わが国で行われている法による強制手段、すなわち制裁方式について説明できるようにします（D1・C1）。また、どのような手段が法制度上用意されているか考察できることを目的とします（D1・I1）。1回～6回までの内容を確認するため、レポートを実施します（C1・D1・H1）。レポートの解説については翌週行います。 ③予習（120分） 『ブラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の第2章第1節を読み、制裁方式の種類について確認する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、わが国の制裁方式を理解し、法と強制の関係を具体的に考えなければならない。
7	①授業テーマ 裁判制度 ②授業概要 法を具体的事件に適用し、解決するのが裁判である。裁判とはそもそもどのような事件を解決するためにあるのか、裁判所の構成やそれぞれの裁判所にどのような役割があるのか、わが国の裁判制度について説明できるようになることを目的とします（D1・C1）。6回のときに実施したレポートの解説を行います（C1・D1・H1）。 ③予習（120分） 教科書『ブラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の第5章第2節第3節を読み、日本の裁判制度の全体像を確認する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、日本の裁判制度を理解し、裁判制度の構成について考える。
8	①授業テーマ 刑事裁判と民事裁判 ②授業概要 わが国には、刑事裁判、民事裁判、行政裁判といった裁判制度があり、それぞれ異なる仕組みとなっている。そこで、まずそれぞれの裁判の仕組みや流れを概観し、刑事裁判や民事裁判における諸原則について説明できるようになり（D1・C1）、いかにして事件解決を導くのか考察できることを目的とします（H1）。 ③予習（120分） 教科書『ブラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の第5章第

	1節を読み、日本の裁判の仕組みについて理解しなければならない。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、刑事裁判・民事裁判と行政裁判についてそれぞれ事件をどのように解決していくのか考える。
9	①授業テーマ 市民法について－民法の基本原則と権利主体－ ②授業概要 市民生活の基本法は、民法である。そこで、民法の歴史、意義などを概観し、その基本原則、民法上の権利やその権利主体、時効制度について説明できることを目的とします（D1・C1）。 ③予習（120分） 教科書『ブラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の民法・刑法編第1章第1節～第5節を読み、民法の基本について理解しなければならない。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、できれば参考書『はじめて学ぶ民法』の第1章から第3章までを読んで、民法の基本について理解しておかなければならない。
10	①授業テーマ 物権について－所有権とは何か－ ②授業概要 物権は物を直接的・排他的に支配する権利である。物権の意義や効力を概観し、物権の効力、種類や物権変動について説明できることを目的とします（D1・C1）。 ③予習（120分） 教科書『ブラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の民法・刑法編第1章第6節第1項、第6項、第7項を読まなければならない。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、できれば参考書『はじめて学ぶ民法』の第1部第1章から第5章も読んで、物権の基礎について理解しなければならない。
11	①授業テーマ 用益物権と担保物権－所有権の制限について－ ②授業概要 物権には、用益物権と担保物権がある。これは、物権の代表格である所有権を制限する物権である。そこで、この2つの意味や種類について概観し、どのようにして所有権が制限されるのかについて説明できることを目的とします（D1・C1）。 ③予習（120分） 教科書『ブラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の民法・刑法編第1章第6節第2項～第5項を読み、用益物権と担保物権について理解しておかなければならない。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、できれば参考書『はじめて学ぶ民法』第1部第7、8章も読んで、用益物権と担保物権について理解しなければならない。
12	①授業テーマ 契約について－契約の意義・代理、履行と消滅－ ②授業概要 契約とは、法律上の効力を有する約束のことである。そこで、契約の意義や原則、代理制度、契約の履行や消滅について概観し、契約の基本である債権債務関係について説明できることを目的とします（D1・C1）。第7回～12回までの内容を確認するため、論述形式のレポートを実施します（C1・D1・H1）。翌週、レポートの解説を行います。 ③予習（120分） 教科書『ブラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の民法・刑法編第1章第7節第1項を読まなければならない。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、できれば参考書『はじめて学ぶ民法』の第1章から第9章までを読んで、契約の基本構造を理解しなければならない。
13	①授業テーマ 契約の種類と債務不履行 ②授業概要 契約には、様々な種類がある。そこで、それぞれの契約の種類について概観し、それぞれの特徴について考察できることを目指します（D1・C1）。さらに、契約がうまくいかなかった場合、すなわち債務不履行についてその基礎を考察できることを目的とします（H1・C1）。12回のときに実施したレポートの解説を行います（C1・D1・H1）。 ③予習（120分） 教科書『ブラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の、民

	法・刑法編第1章第7節第2項、第3項を読まなければならない。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、契約の種類や債務不履行について実生活の具体的な事例を想定しながら、理解しなければならない。
14	①授業テーマ 不法行為について ②授業概要 ある者が他人の権利や利益を違法に侵害した場合を不法行為といい、被害者は損害賠償を請求できる。そこで、いかなる行為が不法行為となり、どのような不法行為が民法上想定されているかを概観し、不法行為とされた場合どの程度の損害賠償責任を負うのかを考察できることを目的とします（D1・C1）。 ③予習（120分） 教科書『ブラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）の民法・刑法編第1章第8節を読まなければならない。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、不法行為の要件、損害賠償の範囲などを具体的事例を参考にしながら理解し、まとめておかなければならない。
15	①授業テーマ 市民生活と法のまとめ ②授業概要 14回の授業で学んできたことを総括し、市民生活における法の存在と市民生活の基本法である民法について確認するため授業内試験を実施します（1時間、D1・I1・H1）。授業内試験終了後、試験内容について解説を行います（30分）。 ③予習（120分） 講義ノート全体を読み直す。 ④復習（120分） 講義ノートを読み返し、今後履修する法律（私法）系科目について考えなければならない。
関連科目	国家と法（RMGT1142）
教科書	高乗正臣・奥村文男編『ブラクティス法学実践教室Ⅰ〔法学・民法・刑法編〕』（成文堂）『判例六法（最新版）』（有斐閣）
参考書・参考URL	川井健『はじめて学ぶ民法』（有斐閣） 山下淳司、島田総一郎、穴戸常寿『法解釈入門』（有斐閣） 田中成明『法学入門』（有斐閣）
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 火曜日1限 それ以外の時間については、講義後にアポイントメントをとることにより研究室で対応します。
研究比率	

